

令和3年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立八女農業高等学校

自己評価				学校関係者評価	
学校運営計画(4月)			評価(総合)		自己評価は A: 適切である B: 概ね適切である C: やや適切である D: 不適切である
学校運営方針	教育基本法及び学校教育法に基づき、人格の完成を目指し、農業の意義や役割の理解と「農業に関する将来のスペシャリスト」として必要な専門知識・技術を習得させる。 校訓「自律・創造・協同」を旨としながらより良い校風の樹立に努め、「厳しさや苦しさ」に耐える自律心、「感謝と思いやりの心」、自己実現のために必要な「創意工夫する創造力」を育成し、農業及び地域産業並びに地域社会の発展と活性化に寄与できる人材づくりを目指す。		A		
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
【成果】令和2年度は全生徒参加による生徒会活動の活性化を図った。新型コロナウイルス感染症の影響で多くの学校行事が中止となったが、グラウンドオープニングセレモニーや八女農交流といった新たな行事、規模を縮小した八女農祭等において、生徒の活躍する場をつくることのできた。農業クラブの全国大会は中止となったが、校内発表を実施し、職員も工夫をしながら生徒たちを支え指導を行った。また、創立120周年記念事業の一つとして、同窓会の支援により北山農場にウマが導入され、特色ある教育環境を一層充実させることができた。ウマの導入は本校の広報の上でも大きな役割を果たしている。外部講師による講演や就職指導員の配置、全職員の連携による指導等によりキャリア教育の充実が図られ、就職内定100%や国公立大学3名合格をはじめとする進学実績等、4年連続100%の進路実現を行うことができた。 【課題】令和2年度は30名4学科体制の完成年であった。新教育課程となる令和4年度に向け、地域や中学生から選ばれる魅力ある学校づくりを目指して、今後一層学科改編等の取組を加速していく必要がある。	(1) 生徒の確かな学力の育成を図り、地域との交流を深める活動を通して農業に関する将来のスペシャリストとしての自覚と必要な専門知識・技術を習得させる。	① 学習目的の明確化と規律ある授業を展開し、日常の授業に対して熱心に取り組む態度を育成する。 ② 地域との交流活動を通して地域貢献の意識を育み、本校での『学び』を地域に還元する意識と意欲を育む。(特に隣接する公立八女病院との連携強化)			
	(2) 生徒一人一人を見据え、学習内容の習熟の程度に応じた個別指導やグループ別指導学習等の積極的な取組を行い、「基礎・基本の徹底」を図る。	① 教科・科目全領域において基礎学力の定着に向け、授業の工夫改善を図り、きめ細かい指導を行う。 ② ICTを活用した授業等の工夫と活用を図り、生徒一人一人の学習能力の向上に努める。			
	(3) 自尊感情を高め、他人を思いやることのできる心豊かな人間形成に向けた取組を推進し、人権意識の高揚やいじめの撲滅を目指す。	① 挨拶等の礼儀作法、時間厳守、掃除の徹底、服装等の基本的生活習慣を確立するための指導を全職員で取り組む。 ② 学校の教育活動全般を通じた人権教育を推進し、生徒一人一人が大切にされることが実感できる学校づくりに努める。 ③ 生徒支援相談・いじめ問題対策委員会を中心とした組織的な連携により、いじめの発生防止と支援を要する生徒の早期発見に努める。また、スクールカウンセラーや訪問相談員、スクールソーシャルワーカーの活用を図り、悩みを抱える生徒等への教育相談機能を活性化させる。 ④ 特別支援教育充実に向けた校内体制を活性化し、生徒の支援体制を整える。			
	(4) 学校の教育活動全般において、人として正しく判断し、行動できる生徒を育成する。	① 生徒会活動及び農業クラブ活動の活性化を図り、農業高校の特色を活かし実践力のある生徒を育成する。(生徒による運営、進行等活躍できる機会を増加する。) ② 部活動の見直しを行い入部率の向上を図り、併せて学校活性化を図る。			
	(5) 意欲ある入学志願者の確保を図るため、学科の見直し、入試方法の検討を行う。	① 時代のニーズにあった学科の再編整備を関係者の理解を得ながら本年度中に実施する。 ② 中校訪問をより実施し、体験入学への参加者の増加を図るとともに、出前授業、学校説明会を積極的に行う。ホームページ、広報誌を活かした広報活動を促進する。 ③ 特色化選抜入試の導入に向け、教職員や中学校の理解を得る。			
	(6) 「鍛ほめ福岡メソッド」を推進し、120周年事業に向けて全教職員の意識の向上を図る。	① 120周年に向けた事業の具現化を図り、教育環境の整備を行うとともに、学校行動指標を作成する。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
教務部	学習意欲を高め、基礎学力の向上を図る。	各科目の学習目標や計画、評価を点検し、生徒に学習の達成感をもたせる。	A	A	・各教室に設置されたPCとプロジェクターを活用しICT教育の推進を図るとともに、主体的対話的な深い学びの視点に立った授業改善を進める。 ・グループ活動やペアワークを実施する場合には、互いの間隔を取り、こまめな換気やマスク着用の徹底を図る。 ・ノーチャイムを継続し、時間管理能力の育成を図る。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けて、教室等における換気を徹底し授業中の学習環境を整える。 ・全職員が統一して指導できるよう、授業規律と教務規定を見直す。 ・統合型校務支援システム導入に伴う、全職員への周知と徹底を行う。
		特別活動、HRや総合探究を通して、将来の目標や自己の在り方をもたせる。	A		
		考査前学習会を実施して学習内容を深めさせ、基礎学力の向上を図る。	A		
	規律ある授業を実施し、学習環境を充実させる。	教務規定や授業規律を見直し、生徒の学習環境づくりに努める。	B	A	
		時間管理能力の育成に向けて、ノーチャイムを実施する。	A		
		生徒の関心意欲の見取りや学習態度を育成するため、学習の過程などを多面的に評価する。	A		
農業高校の特色ある教育内容の検討・推進と情報発信を図る。	新学習指導要領をもとに、各教科に係る教育内容の検討や導入を進める。	B	B		
	本校の将来ビジョンを構築し、新学科の編成及び教育課程の検討を進める。	B			
	本校ランドデザインの達成や各科の特色を情報発信する。	A			
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見				
A	・地域から本校への期待も大きく、地域と連携した様々な取組は今後も継続して欲しい。 ・学校教育の成果が生徒募集につながるよう、広報活動に今後も力を入れて欲しい。 ・落ち着いた教育活動が行われている様子がうかがえる。				

生徒指導部	基本的な生活習慣及び自己肯定感の確立と他者を思いやる心の育成を図り、自律の精神を養わせる。	生徒会や農業クラブ役員等と一緒に全職員で定期的に挨拶運動や声掛け運動を行う。	B	A	○生徒会活動を効果的に機能させるとともに、生徒会活動と教師の指導が連動した組織体制を構築する。 ・生徒が校則を遵守したり、挨拶を自ら行ったりすることが出来る力を身につけるための環境を創造する。 ・コロナ禍に因んだ体育的行事等を創造する。 ・保護者や地域を巻き込んだ登下校指導や挨拶運動を定期的実施する。	A	・コロナ対応で学校行事の中止や変更など大変だと思うが、生徒の気持ちに寄り添う教育活動を今後もお願いしたい。
		季節や体調・学校行事などその時に応じた身だしなみの指導を徹底する。	A				
		全生徒が自らの規範意識を高め、校則等を遵守する力を養うことができるような指導を行う。	A				
	学校行事等を通して、自己の役割を果たし、仲間と協同する力を養い、愛校心を育むとともに地域から信頼される生徒を育成する。	生徒会活動や農業クラブ等の活動に積極的・主体的に参加させる。	A	A			
		地域の活性化に繋がる活動に積極的に参加させる。	B				
		部活動の加入率を向上させるために、強化部の設置等の取組を行う。	A				
自他の安心や安全を確保するといった意識を高めさせ、危機管理体制の充実を図らせる。	情報モラル教育やネットパトロールを行う。	A	A				
	スマートフォンや携帯電話等の正しい使用の仕方について、全職員・保護者の共通理解のもと、組織的な取組を行う。	A					
	学校・家庭・関連諸機関等との組織間連携を密に行いトラブルの未然防止と素早い初期対応ができる体制を整える。	A					
進路指導部	生徒一人ひとりの希望進路を把握し、適切な進路指導を行う。	3学年担任との定期的な会議を実施する。	A	A	進路ガイダンスはコロナウイルスの影響が心配されるが、安全対策を十分に行い計画的に実施し、生徒の進路選択の幅を広げる。 就職は、今年度内定した企業への訪問や電話連絡により、人事担当者との連携を深め今年度並みの求人数を確保する。 今年度は国立大学への進学者がいなかったため、次年度は国立大学に1名以上の合格を目指す。	A	・進路内定率100%達成は、進路指導が徹底されている成果であり、高く評価できる。 ・本年度国立大学への進学が実現できなかったのは非常に残念である。次年度は実現できるよう計画的な指導をお願いしたい。 ・地元に残り、地域の基幹産業を支えるなど、「地元で頑張る人材の育成」は今後も力を入れて欲しい。
		就職は、令和2年度に内定した企業の人事担当者との連携を深め、今年度並みの求人数を確保する。	A				
		進学は、4年制大学の魅力を伝え進学の見込みの1つとして考えさせる。	B				
	学年や各科と連携して組織的な指導の充実を図る。	生徒の個人面談を行うことにより、適性に合った進路選択を促す。	A	A			
		就職は、10月末に内定率80%、1月末に内定率100%を目指す。	A				
		進学は、個別指導を徹底し、合格率100%を目指す。	A				
3年間を通じた進路指導の検討と充実に努める。	進路ガイダンスはコロナウイルスの影響が心配されるが、安全対策を十分に行い計画的に実施する。	A	A				
	課外授業を充実して学力の向上を図り、進路希望の実現を図る。	B					
	資格取得を推進する。	A					
保健部	生徒の健康課題やニーズの把握	生徒の健康課題やニーズを把握し、個々の特性・発達段階に応じた継続的支援を工夫する。	A	A	特別支援コーディネーターと連携し、引継ぎシートのある生徒の支援について、早めに個別の指導(支援)計画の作成に協力していく。 感染症対策の推進。 委員会活動の充実化。	A	・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための学校での取組を引き続きお願いする。 ・SCや訪問相談員等の関連機関との連携による教育相談や教職員への支援は効果を上げているということなので、次年度以降も配置の継続をお願いしたい。
		生徒一人一人に自信と誇り感謝を持たせる工夫を重ねていく。	B				
		学年・他分掌・各種委員会と連携し、健康教育推進事業、SC、SSW、訪問相談の効果的活用を努める。	A				
	安心・安全で快適な教育環境づくりへの取り組み	校内美化活動の活発化を進める。	A	A			
		薬剤師による教育環境の調査・点検・改善を図り、学習環境の「整美」を行う。	A				
		消毒液の設置・手洗いの管理・換気等日常における学校環境衛生管理を行う。	A				
委員会活動(保健委員会・美化委員会)の活性化	保健委員会と美化委員会を活用した健康教育等を充実させていく。	B	B				
	高等学校保健会での研究発表、論文・ポスター・標語等積極的参加し、自らの健康への意識を高める。	A					
	「保健だより」や掲示物を通して、健康に関する正しい情報を発信していく。	B					
研修部	職員研修全体の企画・立案及び円滑な運営を図る	学校の教育課題とその解決策や職員のニーズに対応した研修を企画・実施する。	B	B	・ICT機器の実践的な活用について、ICT支援員やネットワーク管理者と連携を取り、授業だけでなく様々な教育活動で活用できるよう、研修会を企画・実施する。 ・観点別評価の実施に伴い、授業改善の必要になるので、教務と連携して実践的な研修会を行う。 若年研修が3年目と2年目を迎える先生がいるので、教員としての資質や能力を向上させるだけでなく、より実践的な研修を精選し企画・実施することで、リーダーシップの育成にもつなげる。 ・生徒が気軽に図書館を利用し、本に対する関心を高めることができるよう、図書委員会を中心にイベント等を企画し、活性化を図る。 ・生徒の学習支援を効果的に行うために、次年度も継続してパスファインダーの作成を行う。	A	・学習指導要領の改訂、ICT機器の活用等、これまでの指導の在り方を大きく見直していかなければならない時期に来ている。今後も先生方の研修を積極的に推進し、教職員の資質の向上に努めていただきたい。
		タブレット導入も視野に入れ、ICT機器の活用法を紹介したり、効果的な指導ができるような研修会を実施し、職員へのサポートを行う。	A				
		研究授業を推奨し、年に2回の授業アンケートを実施することで、個々の授業改善を図る。	B				
	若年教員研修と教育実習生の指導力の育成および向上に繋がる研修を教科・各学科・各分掌と連携して実施する	教員がOJT、OFF-JT、メンター制等を活用できるサポートし、学校全体が協力して総合的に研修を推進していく。	B	A			
		若年教員研修や教育実習がスムーズに実施できるよう、校内だけでなく関連機関との連絡や報告文書の送付を遺漏なく行う。	A				
		初任者や教育実習生の指導力育成および向上につながるよう、指導教員や教科指導員との連携と研修の企画、実施を行う。	A				
生徒の図書館利用の促進を図り、知的好奇心を喚起する	図書委員への指導を充実させ、委員会を中心とした読書の活性化を図るために「朝の読書」の実施や、移動図書を継続して行う。	A	A				
	蔵書の点検および拡充を行い、図書館独自のイベントを企画・立案・運営することで、図書館利用者を増やす。	A					
	生徒の学習支援を行うために、授業に役立つ資料を備え、パスファインダーを作成し、図書館や各学科に設置する。	B					
庶務・広報部	式典・行事等の企画、立案及び円滑な運営を図る。	学校運営に係る企画、庶務全般の運営を円滑に行う(会議、行事に係る資料の印刷、管理等)。	A	A	関係部署と連携協力しながら、学校行事や日々の学校運営に努める。 八女地区高P連の事務局として、円滑な運営を心掛けたい。コロナ禍の中で、必要不可欠な行事については、感染症対策に注意しながら円滑に進めたい。 学科等と連携協力しながら、情報発信に努め、地域にPRすると同時に中学生の本校に対する興味関心を高めたい。	A	・生徒の様々な活躍や農業高校の取組がメディア等に取り上げられる機会が増えている。これらの機会を活用し、今後も本校の取組を積極的にPRしていただきたい。 ・体験入学や学校説明会などを充実させ、中学生や地域の方々に、本校の特色ある教育活動や取組についての情報提供を一層充実して欲しい
		防火防災避難訓練の企画、立案及び円滑な運営を図る。	B				
		表彰に係るデータの管理、表彰式の計画、表彰状の作成等を遺漏なく行う。	A				
	保護者との連携を強化し、PTA活動を活性化させる。	PTA行事、互助会行事、親和会行事に参加を促し、成功させる。	B	A			
		PTA総会、地域懇談会、PTA視察研修会等、新型コロナウイルス対策を考慮しながら、企画、立案及び円滑な運営を図る。	A				
		PTA各種委員会活動(合同交通指導、PTA新聞発行、PTA校内バレーボール大会等)全般への支援を行う。	A				
広報活動を推進し、中学生や地域に浸透を図る。	八女地区PTA行事(バレーボール大会等)への参加・支援を行う。	B	B				
	広報委員会と連携し、八女農だより発行等で、本校の活動を発信していく。	A					
	各学科、各学年と連携を密にして、行事や実習等の情報を収集し、地元メディアと連携し、中学生や地域に発信していく。	B					
	各学科の販売実習等の活動を庶務・広報部に事前連絡してもらい、FM八女等で発信する。また、各新聞等での八女農業高校の記事を庶務・広報部に連絡してもらい、校内にも広報する。	B					

第1学年	基本的生活習慣の確立	ノーチャイムでも時を守れるように、担任・副担任及び学年で連携して指導する。挨拶をすることがコミュニケーションの基本であることを理解させ、継続的な指導を行う。	A	B	A	挨拶と返事の指導を学校全体で指導する。	A	2年生では資格取得を推進し、進路に向けた準備を行い実行する。	A	・定員120名に対して一学年88名ということで心配していたが、生徒が落ち着いて真面目に取り組めている様子がわかり安心した。 ・1年次に各学科の内容を体験した後で学科の選択を行う現在の方法は、生徒、保護者の意向を十分に確認した中で選択が出来ると評価している。今後も、本人の意向を尊重した学科選択が出来るようにしていただきたい。		
	生徒一人ひとりの希望進路を把握し、適切な進路指導を行う。	進路マップや進路アンケート等を活用して、進路目標を決定していく。SPI、進路マップを活用しながら学力の向上を図り、進路希望の実現を図る。各種検定・資格取得に向けて指導を徹底する。	B								A	遅刻の多い生徒がでてきているため、学年、教務と連携し指導を行う。ルールを整理し教員間、生徒間で認識させる必要がある。
	規範意識の高揚	人権意識を持たせ、いじめを許さない雰囲気を作る。物事に対して、正しい判断力を身に付けられるように、HRを通じて継続的に指導する。校則を遵守させ、頭髪・服装については、生徒指導部と連携を密にして、学年全体で指導する。	B								A	
第2学年	規範意識の深化	生徒指導部と連携して指導の充実を図り、生徒自らが校則を順守していくことで、中堅学年としての意識を高める。問題行動につながる内容については情報を共有し、学年団として取り組む。褒める指導を通して自己肯定感を育み、諸行事や学習活動に対して積極的な取組を促す。	B	A	A	生徒指導部と連携し、指導に乗らない生徒への対応を学校全体として強化していく。	A	お互いに協力して学ぶ仲間作りの意識と思いやりの精神を高める指導を高める。	A	・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、インターンシップや修学旅行など学年独自の行事が中止や変更となっていることを心配している。生徒たちの気持ちに寄り添い、工夫した形での行事の実施等も検討してもらいたい。 ・修学旅行が無事実施できたことは良かった。		
	基本的生活習慣の強化と学習環境の整備	基本的生活習慣の指導や授業規律の指導を継続し、学習態度の向上を図る。教室の環境を整える。(持ち物の整理・整頓、ごみの分別、清掃の徹底)お互いに協力して学ぶ仲間作りの意識を持たせる。	B								A	資格取得を推進し、進路に対する意識を高め、最後まであきらめず「可能性にチャレンジ」する態度を育成する。
	進路実現に向けた指導の充実	個人面談等を通して生徒の掌握に努め生徒に対応したきめ細やかな指導を行う。進路指導部と連携を図り、進路情報を提供し進路意識を高めさせる。各種検定や資格の取得を積極的に取り組ませる。	A								A	
第3学年	進路実現に向けた指導の充実	進路指導部と連携して生徒に的確な情報を提供し、進路の明確化を図る。進路指導部及び学科・各教科と連携して個人面談や三者面談を計画的に行い、進路実現に向け主体的に行動させる。朝学習を充実させ、基礎学力の定着を図る。各種検定・資格取得に意欲的に取り組ませる。	A	A	A	公務員受験に向けて、1・2学年次からの継続的指導が必要。	A	生徒主体の企画を実施するために早目の指導を行う。	A	・早い段階からの進路に対する意識付けの指導は十分評価できる。このことが進路内定100%につながっている。次年度も進路実現にむけて早い段階からの取組をお願いしたい。 ・就職が好調の反面国公立大学への進学する生徒が輩出できなかったのは残念である。本校での学びを生かして国公立大学へ進学できる取組を組織的・計画的に行っていただきたい。		
	最上級生として学校全体をリードする生徒の育成	生活面・学習面において1・2年生の模範となるよう、八女農生としての自覚と愛校心を培う。学校行事に際し、1・2年生を指導し協力して活動する意識と態度を育成する。進路決定後も生活習慣の乱れがないよう、無断欠席や遅刻者をなくす指導を継続する。	B								A	・挨拶指導の重点化。 ・小さな芽を見逃さない、見過ごさない指導。
	基本的生活習慣及び規範意識の確立	頭髪・服装および問題行動等については生徒指導部と協力し、学年団として徹底指導を図る。教室の環境を整える。(持ち物の整理・整頓、ごみの分別、清掃の徹底)	B								B	
農務部	農業クラブ活動の充実と県大会の成功	県連事務局としての農業クラブ県大会の成功に向けて取り組む。プロジェクト発表、意見発表、農業鑑定競技等の指導を学科の枠を越えより組織的に行う。	A	A	B	農業クラブ係全体として組織的計画的な動きができた。	B	年度当初の役割分担が上手くいかなかったが、多くの協力を頂き実施できた。	A	・農業クラブの全国大会が実施され、本校生徒が入賞できたことは喜ばしい。 ・様々なイベントへの本校の参加は、地域の活性化に貢献している。また、生徒は地域の活動への参加を通して郷土に対する思いを育てていただきたい。		
	農業教育の理解とイベントによる学校PR	体験入学の運営を円滑に行い農業教育の理解に努める。イベントでの広報活動に力を入れる。インターンシップの受け入れ先の検討や事前指導・事後指導の徹底を図る。	A								B	農場全体の整備ができた。北山でのICT環境の整備は喫緊の課題である。
	農場の環境整備と備品の充実、ICTの導入	必要備品の購入と計画的な廃棄処分を行う。授業に活かせる農場・実験室・実習室の整備を行う。農業科目におけるICTの導入と活用法について研鑽に励む。	B								B	
生産技術科	教育内容の精選と充実	2年時からプロジェクト学習を行い、専攻学習内容の充実を図る。学習環境の整備を推進し、各専攻の生産物の品質を高める。生産から販売までの系統的な学習を通して農業経営力を育成する。	B	A	A	プロジェクト学習の充実を図る。	A	・基本的生活習慣を身に付けさせる。 ・挨拶・服装の指導徹底。	A	・コロナ禍での販売実習の中止等は残念であった。レンアイ米といった学校生産物の福岡岩田屋での販売実習などの教育活動は生徒に自信や誇りを持たせる素晴らしい取組であるので、今後も継続して欲しい。 ・茶業などのこの地域特有の農業後継者育成を頑張ってもらいたい。		
	進路実現に向けた組織的な指導	組織的に指導を行い、規範意識の向上、基本的生活習慣を身に付けさせる。(挨拶等の礼儀作法、時間厳守、身だしなみ、授業規律等)1年から進路先を研究させ(進路室の活用、パソコンでの情報収集、個人面談など)進路実現に向けて取り組ませる。進路部や担任と連携し、生徒一人一人にチューターが生徒に応じた指導を行う(面接、小論文、4年制大学進学対策等)。	B								A	・北山農場の施設・設備の更新。 ・地域交流活動を積極的に実施して観光農園化推進。
	地域の要望に貢献できる教育活動	販売実習や地域の保育園及び小・中学生等の農業体験授業を積極的に行い、地域に根ざした農業教育の充実を図る。研究機関と連携し、最先端の農業の知識・技術の習得に努める。北山農場の観光農園化推進。	A								B	
システム園芸科	教育内容の充実、指導の工夫・改善を図る	学科の特色を生かし、農業生産物の充実と付加価値のある農作物生産をする。一年生に対して学科の内容を分かり易く説明し、特色ある教育内容の充実を図る。新たな栽培技術に取り込み高度な知識の習得を図る。	A	A	A	栽培植物の品質向上の研究	A	挨拶・服装等の指導の重点	A	・先進農家、農業関係機関との連携により、先進的知識や技能の向上を図って頂きたい。 ・園児や小学生の芋掘り実習等の参加型の行事は地域から歓迎されており、生徒自身の学びにも繋がっていると思われるので、今後も継続してもらいたい。		
	基本的生活習慣の確立並びに風紀指導の充実を図る	毎時の授業において服装、頭髪、挨拶、言葉遣い及び時間厳守等の指導を行い、規律ある学校生活を送らせる。実習時間等を活用し生徒一人ひとりの理解に努める。	A								A	・進路意識の向上指導 ・意欲的に資格取得向上への指導
	学習意欲の向上を図る	課題解決学習を積極的に取り組み、学習意欲の向上を図ると共に自主性を身につけさせ、生徒の探究心を引き出させる。資格取得のための指導を強化し、合格率の向上と上級の資格取得を目指すスキルアップを図り、進路実現に繋げる。栽培物の担当を決め責任感と共に学習意欲の向上を図る。	A								A	

生物利用科	学科の特色を活かした農業教育の実践と主体的な学習態度の育成	学科の特色を活かした専門性を深化させる研究活動(プロジェクト学習)、八女農ブランドの積極的な開発と資格取得の推進。	A	A	A	福岡県6次化産業コンクールにおいて本年度も「キウイドレッシング」が奨励賞を獲得し、高校生の部で5年連続受賞することが出来た。 ・本年度、生物利用科から、4年制大学や短大への合格者を出すことができた。国立大学への進学希望者への計画的な指導を実施する。 ・プロジェクト学習や意見発表での県大会出場を果たし、新学科へ継続できる体制の充実を図る。			
		プロジェクト活動の内容の充実を図り、各学年での発表会を実施することで課題解決能力を育成する。	B						
		農業クラブ活動を充実させ、県大会で各種発表・競技会で2個以上の最優秀賞を獲得する。	A						
		4年制大学をはじめとした進学指導、及び就職指導の充実を図る。	A						
	社会の一員としての生き方を学ばせる生活指導と安全指導の充実・徹底	週1回の定例会議での情報の共有化を図り、教師間で生徒指導の目線を合わせた職員体制で取り組む。	A				A	A	・週1回の定例会議の実施で生徒への対応の共通認識ができたので、次年度も時間割内に時間確保をし実施する。 ・コロナ禍でインターンシップができていないが、何時でも依頼できるように企業等とのネットワークづくりに取り組む。
		知・徳・体のバランスのとれた人格の形成を図りながら、知識、技術を身につけさせ、生徒の自己実現を図る。	A						
		インターンシップ事前指導の徹底。受入先の開拓。企業とのネットワーク作り。	B						
	開かれた学校作りの推進と地域との連携・PR強化	保育園・小中学校との交流や出前授業・開放講座等の意欲的な実施。	A				A	A	・次年度より新学科の生徒が入学してくることから、地域イベント等で学習内容等での情報発信の充実を図る。 ・生物利用科として、残り2年間の活動の充実と生徒の活動の場を今以上に作る。 ・北山農場を新学科の学習の充実のため、施設や新しい動物の導入の充実を図る。
		学習活動をHPや学校便り、生物利用科便り、道の駅や販売所のパネルで積極的に発信、生物利用科の取り組みや学習内容を地域に理解させる。	A						
		祭り(道の駅等)や地域行事への参加等による地域とのつながりを強める。	A						
		北山農場における動物科学専攻施設の地域開放(動物園化)と新しい動物の導入。	A						
	生活科学科	基本的な生活習慣・社会的マナーの確立	挨拶や正しい言葉遣い、高校生らしい服装や頭髪等、清潔感のある身だしなみについて、意味を考え自ら実践することのできる態度を身につけさせる。				A	A	A
授業開始・終了での挨拶・服装指導を共通理解を持って行う。			B						
遅刻・欠席・早退の届け出を徹底し、事後指導について確実に行う。			A						
学習成果を進路に結びつける		農業分野とヒューマンサービス・フードデザイン分野との連携を図る授業を展開する。地域連携・外部講師による事業を積極的に導入し、授業を充実させる。	A	A	A	コロナ禍における外部での実習のあり方について再考する。			
		多くの生徒の希望に合うインターンシップ先の開拓を行い、進路実現につなげる。	B						
		進路カードの活用により生徒の進路の希望や特性を把握し、学科職員の共通理解の基、担任を中心に進路指導を行う。	A						
あらゆる場面を学習発表の場と考え取り組む		八女農祭で生徒一人ひとりが活躍し、日頃の学習成果を発表し、地域へPRする。	A	A	A	学科再編に伴い、生徒数が減少するので、さらに協力体制を強化する。			
		各行事において規律や団結を学び、リーダーの育成を行い学科としての協力・生徒間の絆を深める。	B						
		プロジェクト学習の発表会を年2回行い、科学的思考力や問題解決能力・コミュニケーション能力を育成する。	A						
事務部	電話対応・来客接遇の向上	電話やお客様対応をととして、相手の立場に立った「丁寧でさわやかな接遇」に努める。	A	A	A	今年度は、皆が気をつかいながらより丁寧で、爽やかな、お客様、電話対応を行うことができた。 定期巡回を通して、巡回日誌を定期的に作成して安全点検を行うことができた。 今年度も引き続き同窓会、PTAの方々の温かいご理解の基に連携しながら、学校運営を行うことができた。特に、本校の広報活動、新学科新設の協力、120周年記念行事に向けて十分な予算面での協力もいただくことができた。			
	老朽化が進む建物の安全管理	定期的に校内巡視を行い「必要に応じて予算要求」を行ったりしながら施設の補強や修理を行う。	A				B		
		職員に対して、機会あるごとに学校全体の安全意識の醸成を図る。	B						
	効果的予算執行	「地域や保護者、PTA・同窓会等から信頼されるような学校作り」をする。本校の教育活動に対する理解と協力を求め、教育活動充実のための予算確保に努める。	A				A		
		職員に対して節電・節水を始めとする経費節減を呼び掛け、節約した予算で必要な予算措置をする。広報活動の予算確保をしたい。	B						

A	<ul style="list-style-type: none"> ・6次化商品コンクールへの連続の入賞は八女農業高校の加工品に全県的评价が得られた証であり、生徒たちの励みになる。今後も食品加工分野の新たな商品開発を是非実現して欲しい。 ・北山農場での動物ふれあい体験等の体験活動は、小学生以下の子供たち農業への関心を高める取組である。条件が許す限り積極的に受け入れていただきたい。
A	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアに取り上げられた生徒たちの生き生きとした明るい表情は、学校生活を楽しんでいる様子を伺うことができる。学んで楽しい学校という印象を中学生に発信する為にも積極的にPRを行っていただきたい。
A	<ul style="list-style-type: none"> ・120周年記念行事に向けた準備を初めとして、迅速で適切な対応に感謝している。 ・事務室は学校の窓口であり、職員の皆さんの丁寧な対応は学校の第一印象を決める大切なものである。今後も引き続き、丁寧に親切なご対応をお願いしたい。

評価項目以外のものに関する意見

令和4年度からの新学科「動物ペット科」、「食品開発科」について、大変興味を持っている。例えば「食品開発科」で、地元の食材や地域の伝統料理をとりあげるなどは良いのではないかと。今後一層広報活動にも力を入れ、地域との連携も深めてもらいたい。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・今年度につき、体験入学や学校説明会等による広報活動の充実を図り、中学生やその保護者に本校の教育活動の成果を直接伝える機会を増やして生徒募集に繋げる。
- ・新学科を初めとして、各学科の学校設定科目等の学習内容に、地域との連携を積極的に取り入れていく。
- ・交通安全教育を計画的に実施し、生徒の意識に安全や交通ルールを遵守する意識を高め、事故の未然防止に努める。
- ・スクールカウンセラーや訪問相談員等の関連機関と連携した相談委員会を充実させると同時に、関係機関について保護者への周知を図っていくことで、中途退学や進路変更の未然防止及び早期対応に努める。
- ・地域連携を一層充実させ、地域の教育資源を積極的に活用することで、農業を始めとする基幹産業を支える人材育成を推進する。